

誤解だらけの “依存症” in 愛知

依存症の人って意思が弱いから繰り返しちゃうの？
—いいえ、実はちがうのです。誤解や偏見なく
依存症という病気を理解していただくためのイベントです。

入場
無料



2019年2月17日(日)

[時間] 13:00- | 15:30-

[場所] プライムツリー赤池プライムホール

トークイベント



依存症理解啓蒙
サポーター

前園真聖

元サッカー日本代表



濱口優

お笑いコンビ「よゐこ」



ライブ
あります!!

森重樹一

ロックバンド「ZIGGY」Vo.



せやろがいおじさん

芸人・Youtuber



松本俊彦

国立研究開発法人
国立精神神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長



田中紀子

公益社団法人ギャンブル
依存症問題を考える会代表

※当日会場にてアンケートに
お答えいただいた方には、抽選
でプレゼントをお渡しします。



依存症は「回復できる病気」です。

周りの人の理解が回復を助けます。

依存症は、ある行動を繰り返しているうちにそれをコントロールする脳の機能が弱まってしまう『病気』です。^{※1} 決して、意志が弱いからという理由で依存症になるわけではありません。周りの大切な誰かが何らかの病気にかかったとき、誰も相手を責めたり罰したりはしないでしょ。けれど、依存症となると「どうして何度も繰り返しちゃうの？心が弱いから？」「そもそもなんで依存症になるの？」と叱責してしまう。依存症になった本人でさえ、自分を意志の弱い人間だと思い込み、自らを責め、事態を悪化させてしまうのです。依存症から脱するには、本人はもちろん、周囲が依存症を病気であると理解し適切な支援の手を差し伸べることが必要です。誰もが何かを抱えています。その何かは依存症の場合、患者と支援者とを正しくつなげることで、回復への道が見えてきます。^{※2} 一度でも何度でも、つまずいたってまた立ち上がって歩き出せる。そんな社会を、みんなで作っていきませんか？

※1 世界保健機関（WHO）は「精神に作用する化学物質の摂取や、快感・高揚感を伴う行為を繰り返し行った結果、さらに刺激を求める抑えがたい渴望が起こり、その刺激を追及する行為が第一優先となり、刺激がないと精神的・身体的に不快な症状を引き起こす状態」と定義しています。

※2 自助グループや自治体の精神保健福祉センター、専門医療機関などが支援先としてあげられます。

本日のイベントの様子は「YouTube」で生配信！
イベントの情報やコンテンツはTwitterまたはHPをご覧ください。

 Twitter



依存症のイベントや知識、
最新情報はこちらをチェック！

公式HP



マンガ『だらしのない夫じゃなくて
依存症でした』などを配信！

 YouTube



イベントの様子を生配信！
その他にも動画コンテンツをご紹介します！

お問い合わせ先

依存症やその関連問題についてお困りの方は最寄りの
保健所、精神保健福祉センター、民間団体（自助グループ・支援団体）などで
相談を行っています。詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

